



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付け上のお願い

- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤（現場手配）を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤（現場手配）を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。（本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。）
- 組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締め込んでください。但し、叩き込まないようにして下さい。保持力低下の原因となります。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けしてください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル（床面）に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 造作材・建具枠の下地材及び、かい木には、必ず乾燥材（含水率20%以下）を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 床材とツバ付薄沓すりのすき間は5mm以内にしてください。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあけないでください。ツバ材の取付けは、ハンマーなどで強くたたき込まないでください。
- 枠は倒れ、傾き、たいこ、つぶみ、ねじれがないように取付けてください。片引枠の場合は、中縦枠の施工にご注意ください。吊込み後、本体とのすき間・干渉の原因になります。
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。（施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。）
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 軽量鉄骨に直接取付ける場合は、同梱のねじでは取付けできません。現地に鉄骨までかかる長さのねじを手配してください。
- 鴨居取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。
- 埋込下枠を取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。埋込下枠が変形し、本体開閉不具合の原因となります。
- 取付け時の建具養生などは、ダンボール、ミラーマットなどを使用し、粘着力の強いテープ（ガムテープ、養生テープなど）を長い時間建具表面に直貼りしないでください。テープを剥がす際、表面シートを傷めたり、またテープそのものの粘着剤が表面に付着したまま残ることがあります。
- ガイドローラーを圧入する際は、樹脂部に当て木を使用してください。ガイドローラーの破損・変形により、開閉に支障がでるおそれがあります。
- 運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。

■本体保管上のお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。  
・直射日光の当たる場所・昼夜などで温度差の激しい場所・湿気の多い場所
  - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

■部品・部材の明細

※枠はロックダウン、本体は完成品

引戸連動用本体	引戸連動用枠	引戸連動用敷居
<p>1 枚梱包×3 (本体左・本体中央・本体右 各1枚)</p>	<p>上レール 縦枠 鴨居 縦枠 戸当り(2本)</p>	<p>下レール(3本) 薄敷居 又は つば材 埋込み敷居</p> <p>ケーシングセット (ケーシングタイプのみ)</p> <p>ケーシング材 (横用) ケーシング材 (縦用)</p>

■部品セット明細表

〔枠用〕

	皿小ねじM4X50 (鴨居・縦枠 組立て用)	トラスタッピン ねじ1種 φ4×50 (上枠取付け用)	DNビス (皿木ねじ) φ3.8X50 (枠取付け用)	穴埋め シール
1620	4	6	6	※1
1623	4	6	6	※1
2420	4	6	6	※1
2423	4	6	6	※1

〔敷居用〕

	トラスタッピンねじ φ4X50 (下枠・縦枠 組立て用)	ナベタッピンねじ φ4X30 (敷居取付け用)
薄下枠 W16	4	—
薄下枠 W24	4	—
埋込下枠 W16	—	6
埋込下枠 W24	—	6

〔本体用〕

	ガイドローラー	ガイドローラー (本体中央用)
本体左・右	各2	—
本体中央	—	2

※ NC 枠のみ

## 開口部の作り方

※開口部の水平・垂直を正しく出してください。

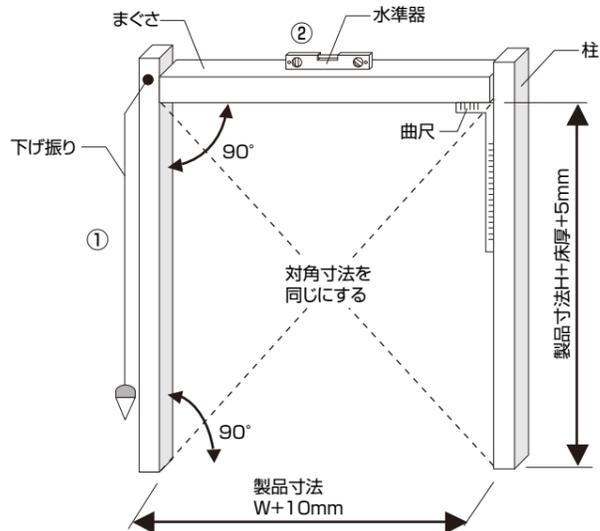
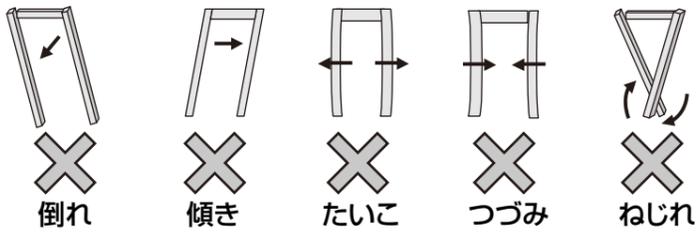
### 製品寸法表

(単位: mm)

呼称	W	H
1620	1643	2023
1623	1643	2306
2420	2443	2023
2423	2443	2306

- ①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。  
②水準器・曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。

※柱、床、まぐさの水平・垂直がでていないと、枠が下図のようになり、不具合現象につながります。



## 床の張り方

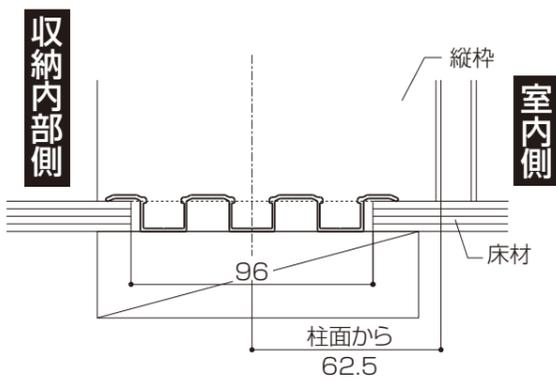
〔埋込敷居の場合〕

### 床張り位置 (床張り込み)

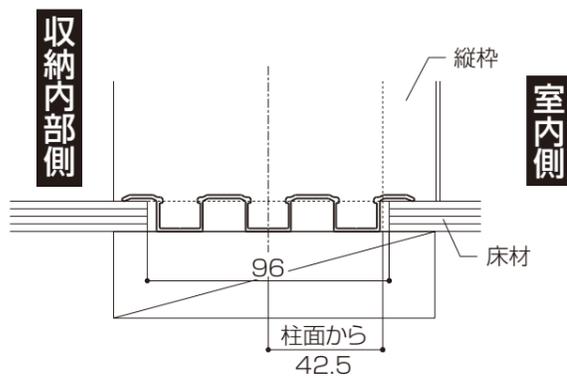
- 下図の位置に96mmあけて床材を張ってください。

※ボード t=12.5 柱 105mm の場合です。

〔ケーシングタイプ〕

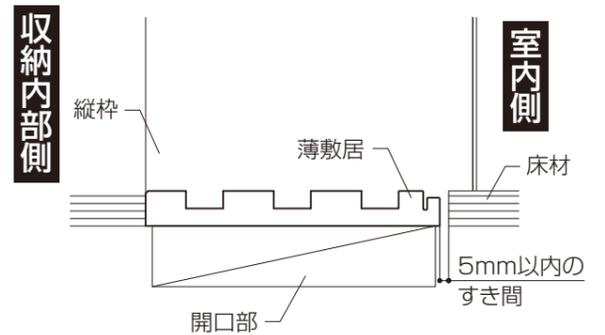


〔ノンケーシングタイプ〕



〔薄敷居の場合〕

- 枠取付け後、下図のように床材を張ってください。



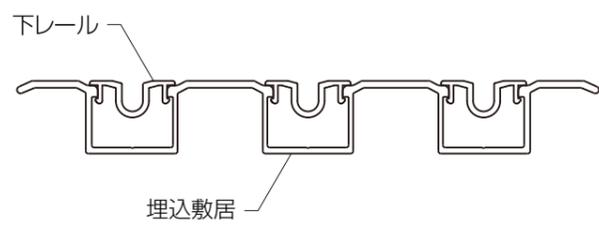
## 取付け順序

### 1 枠の組立て

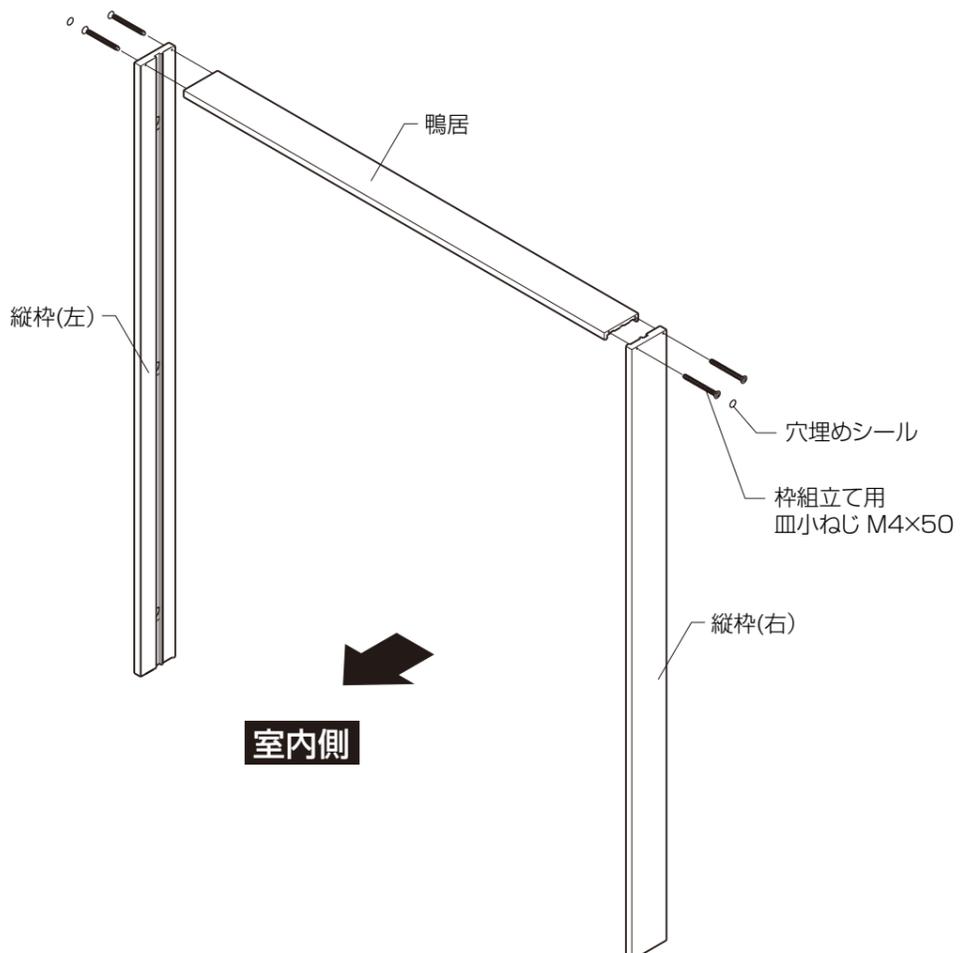
〔埋込敷居の場合〕

- 図のように各部材を組合せ、同梱のねじ (皿小ねじ M4 × 50) で固定します。

### 埋込敷居

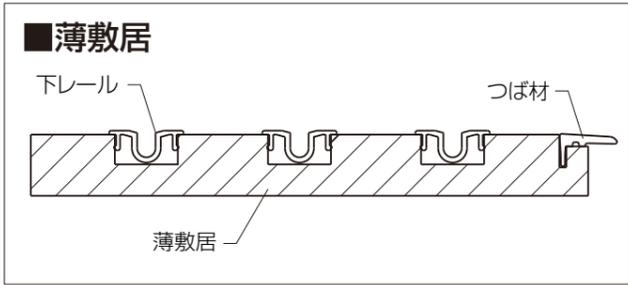


※ノンケーシング (NC) 枠の場合は、組立て用ねじ部に穴埋めシールを張ってください。

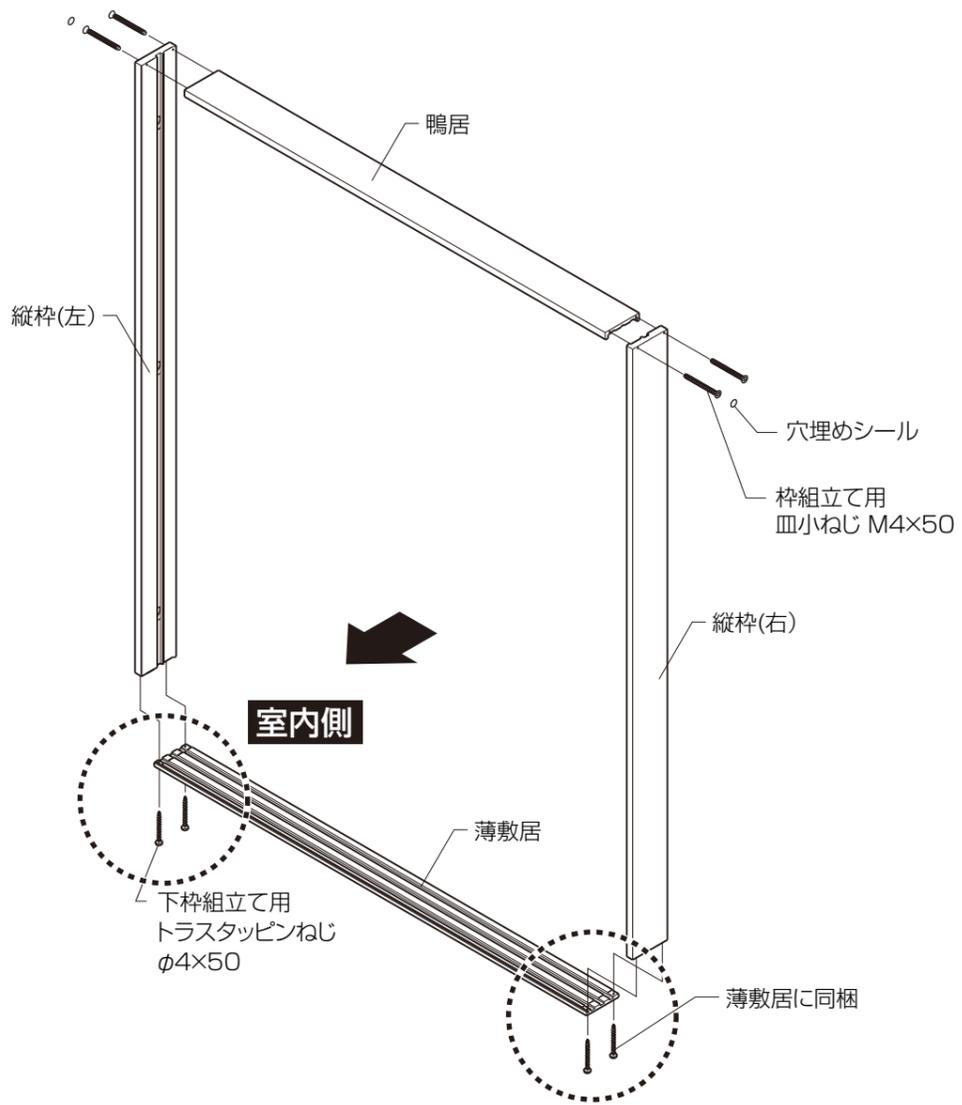


**〔薄敷居の場合〕**

● 図のように各部材を組合せ、同梱のねじ（皿小ねじM4×50およびトラスタッピンねじφ4×50）で固定します。



※ ノンケーシング (NC) 柵の場合は、組立て用ねじ部に穴埋めシールを張ってください。



**2 柵の取付け**

開口部と、縦柵・鴨居との間にかい木を入れて取付けます。

● 鴨居

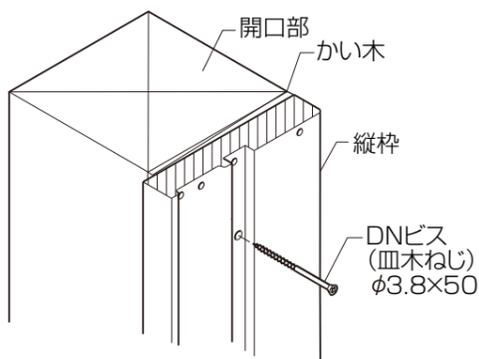
※ 鴨居はトラスタッピンねじφ4×50で固定してください。

● 縦柵

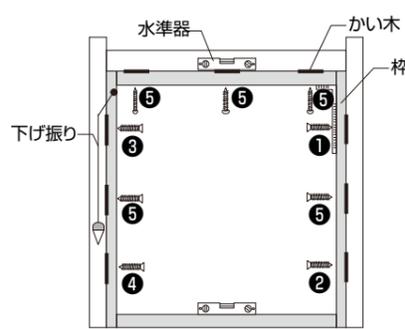
※ DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50で固定してください。

お願い  
※ 柵の倒れ、傾き、たいこ、つづみ、ねじれがないように取付けてください。

■ 縦柵

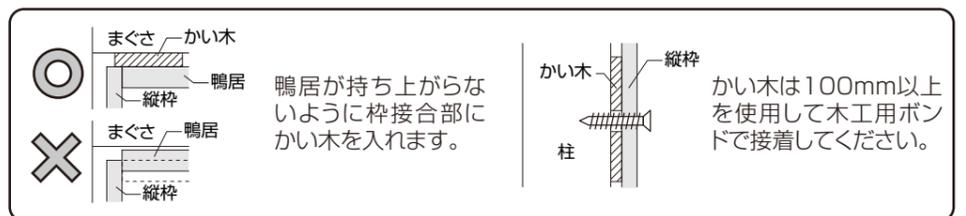
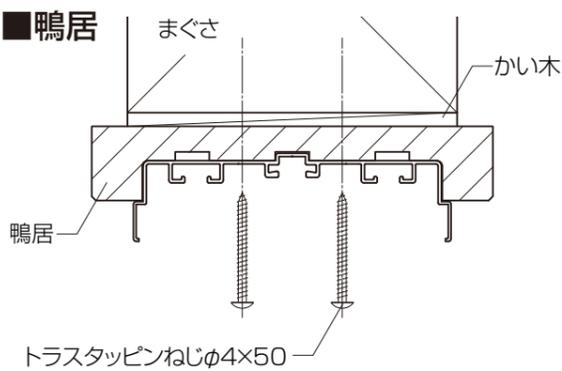


《取付け要領》



- ① 柵を開口部にはめこんで、敷居・鴨居の水平を確認してから、縦柵の①を仮固定してください。
  - ② 下げ振りを使って垂直・倒れがないことを確認してから、縦柵の②を仮固定してください。
  - ③ 水準器で敷居・鴨居の水平を確認してから縦柵の③を仮固定してください。
  - ④ 下げ振りを使って垂直・倒れがないことを確認してから、縦柵の④を仮固定してください。
  - ⑤ 柵の水平・垂直を再度確認して、上下、左右のすき間をかい木で調整後、残りのねじで本固定してください。
- ※ 柵に水糸を張る等して柵が曲がっていないことを必ず確認してください。

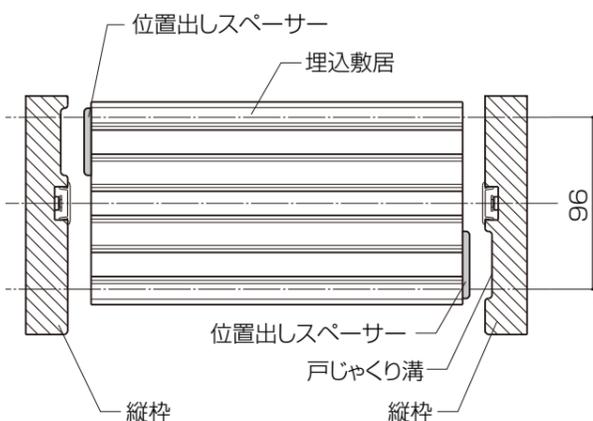
■ 鴨居



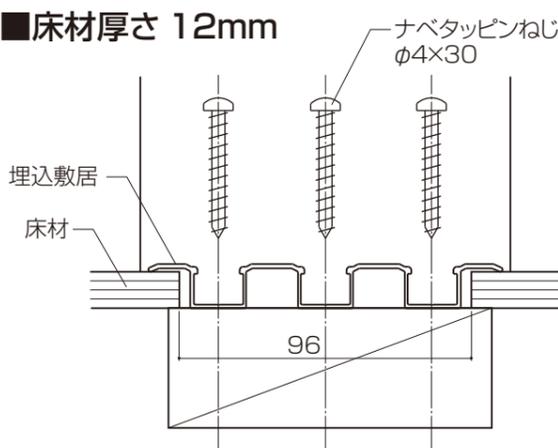
〔埋込敷居の場合〕

① 埋込敷居に付いている位置出しスペーサーを、**■ 床材厚さ 12mm** 縦柵の戸じゃくり溝に合わせます。

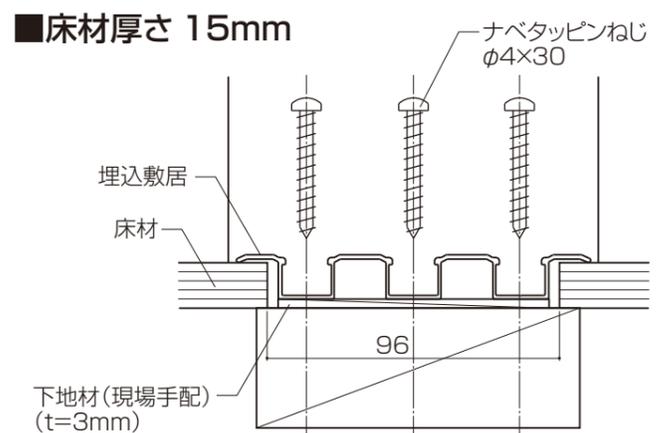
② 同梱のねじで固定します。



■ 床材厚さ 12mm



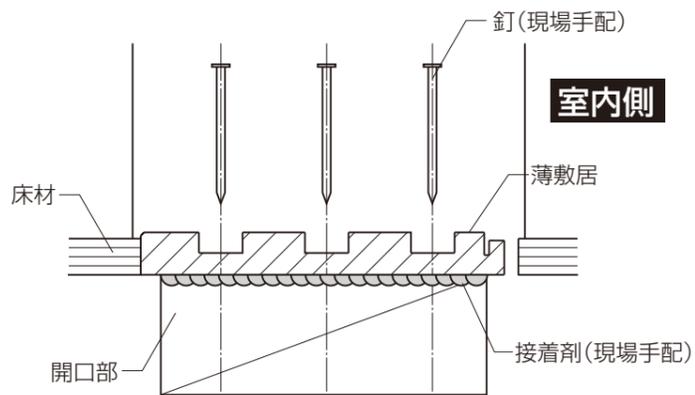
■ 床材厚さ 15mm



## 〔床後張り（枠先付け）の場合〕

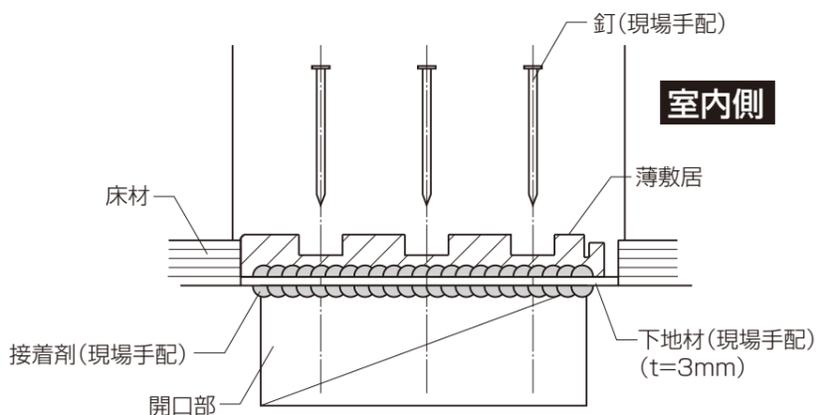
### ■床材厚さ 12mm

※必ず薄敷居に接着剤を付け、躯体に固定してください。  
 ※釘は端部より 100mm 離し、450mm ピッチで接着剤と併用して取付けてください。



### ■床材厚さ 15mm

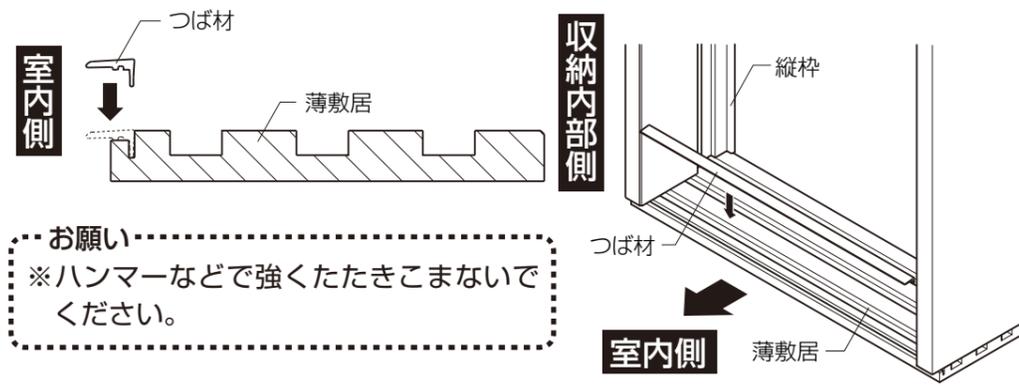
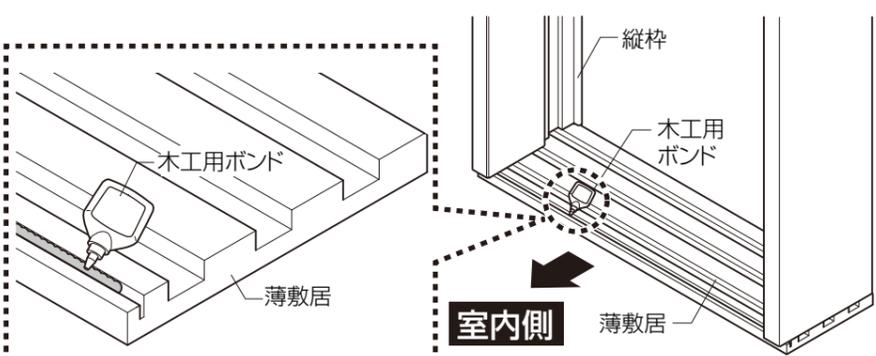
※必ず薄敷居と下地材に接着剤を付け、躯体に固定してください。



## 3 つば材の取付け（薄敷居を使用する場合のみ）

- ①現場でつば材の寸法を開口に合わせて切断してください。
- ②薄敷居の溝に木工用ボンド（現場手配）をつけてください。

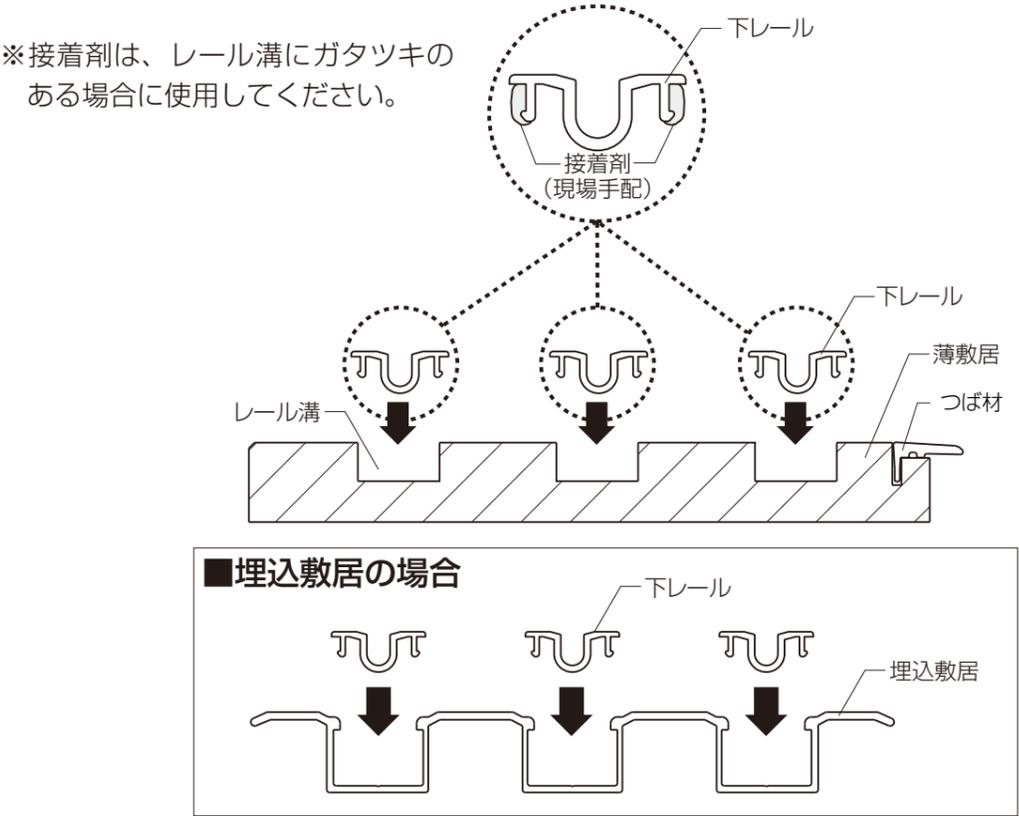
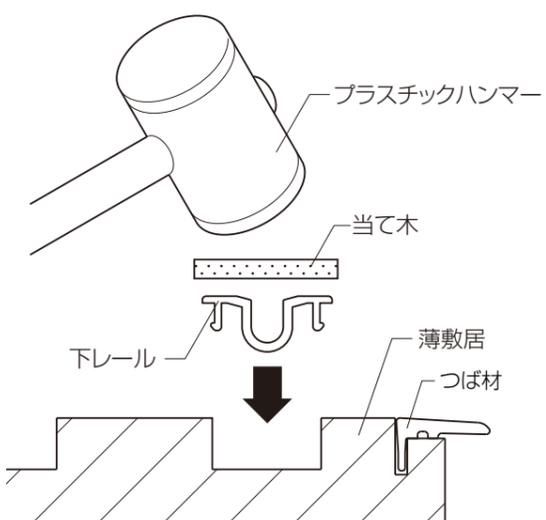
- ③つば材を溝に手ではめこんでください。



## 4 下レールの取付け

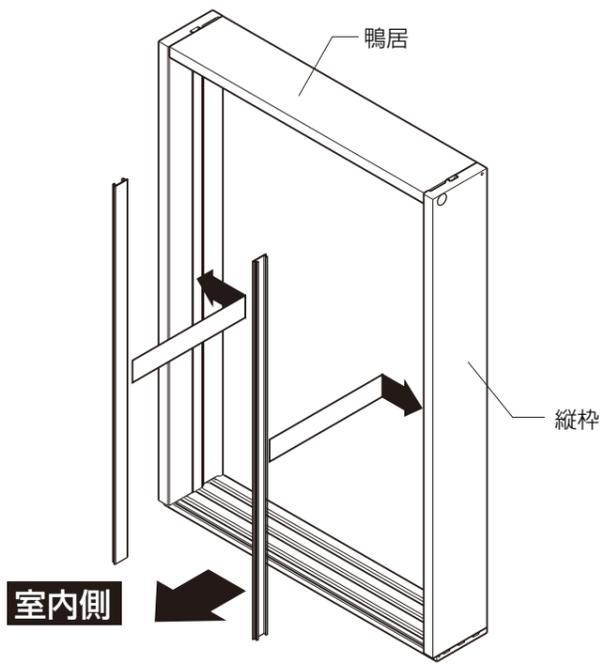
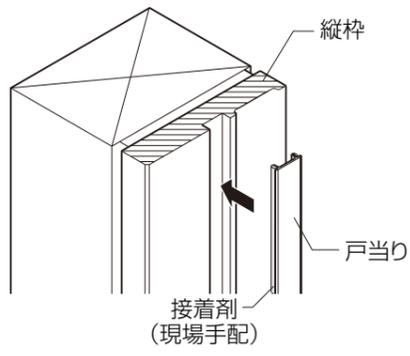
- 下図のように敷居の溝にプラスチックハンマーなどでたたき込んで固定します。

※接着剤は、レール溝にガタツキのある場合に使用してください。



## 5 戸当りの取付け

- 戸当りに接着剤（現場手配）をつけて縦枠に取付けます。
- ※戸当りが長い場合は無理に入れずに必要量を切詰めてください。
- ※戸当りの接着は必ず枠の建付け完了後に行うようにしてください。

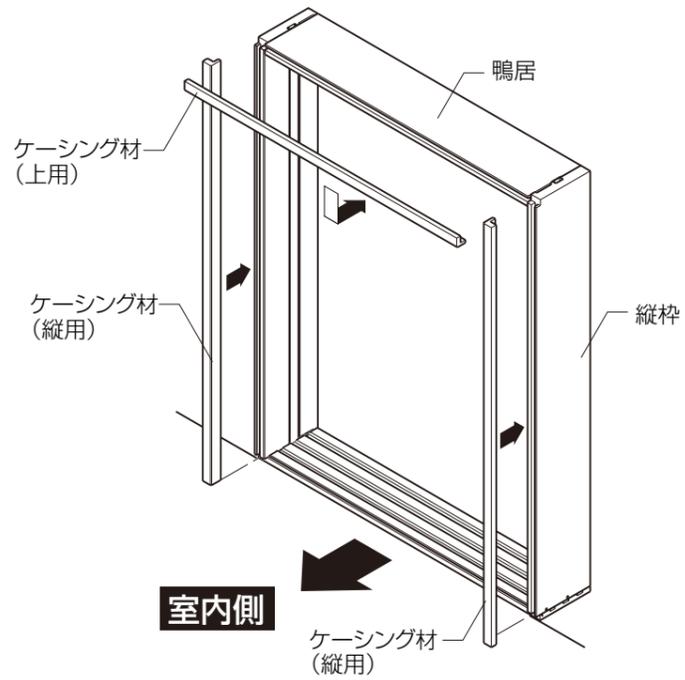


## 6 ケーシング材の取付け（ケーシング付タイプのみ）

※壁材・床材を仕上げた後からケーシング材を取付けてください。

- ①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。
- ②枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
- ③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤（現場手配）を塗布し、ケーシング材を固定します。

※仮止めする場合は、専用かくし釘をご使用ください。

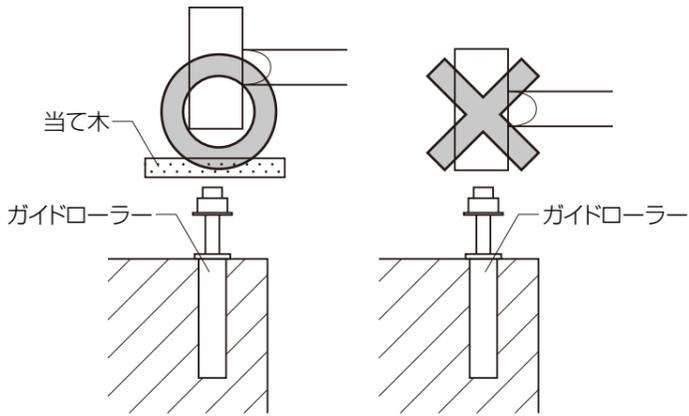
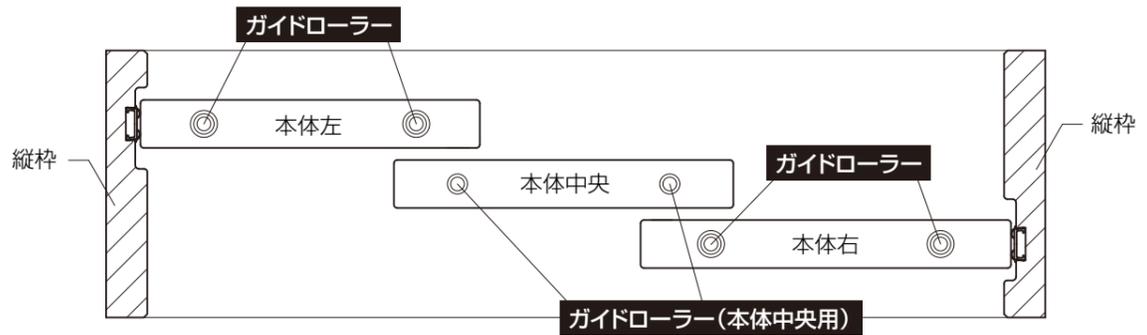


## 7 本体の吊込み

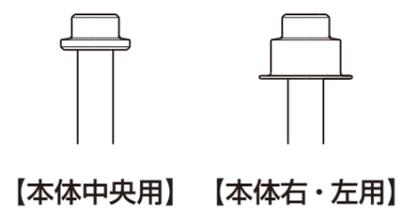
- ①本体へ各部品を取付けます。

### ■ガイドローラーの取付け

- ガイドローラーを圧入する際、樹脂部に当て木を使用してください。

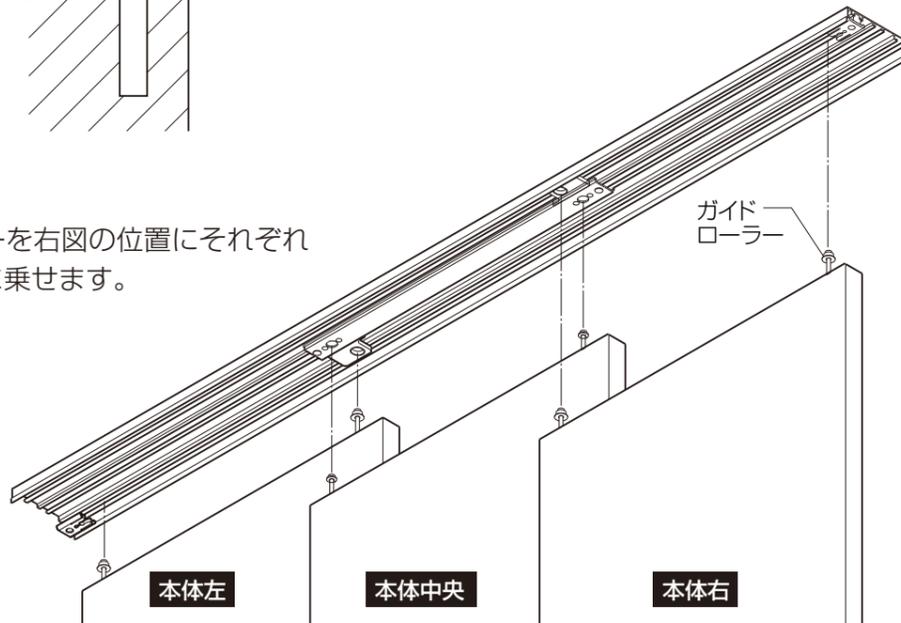


※ガイドローラーの形状は、本体中央用と本体右・左用で異なります。



- ②本体を枠に吊込みます。

本体上部のガイドローラーを右図の位置にそれぞれ差込み、戸車を下レールに乗せます。



## ■引戸の建付け調整

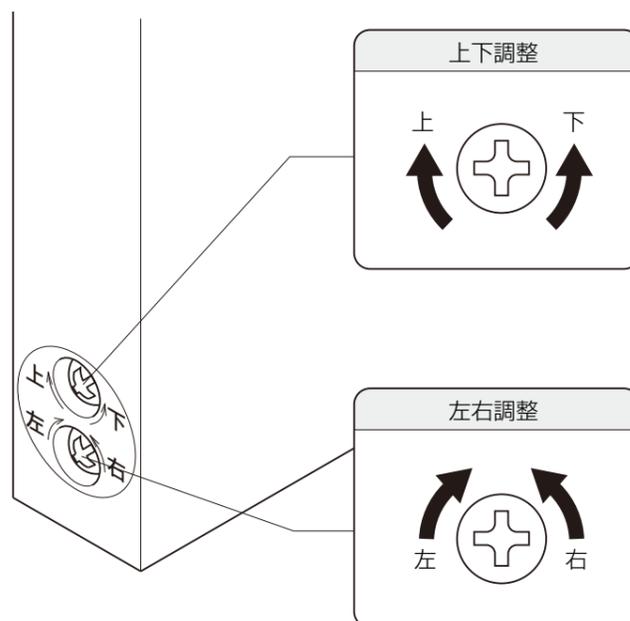
### ■上下調整（調整幅+4mm、-2mm）

- 本体両下端の上下調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。

### ■左右調整（調整幅±2mm）

- 本体両下端の左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。

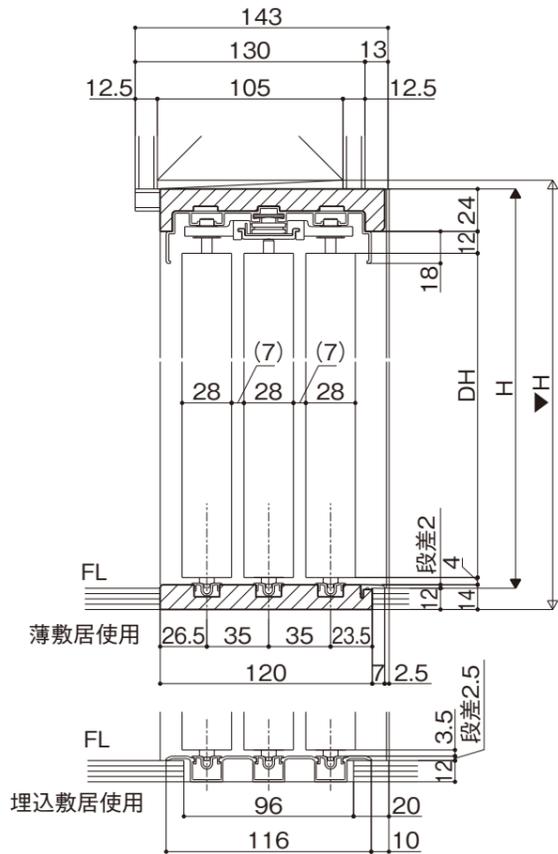
※左右調整をする場合は、本体同士がぶつからないようにご注意ください。



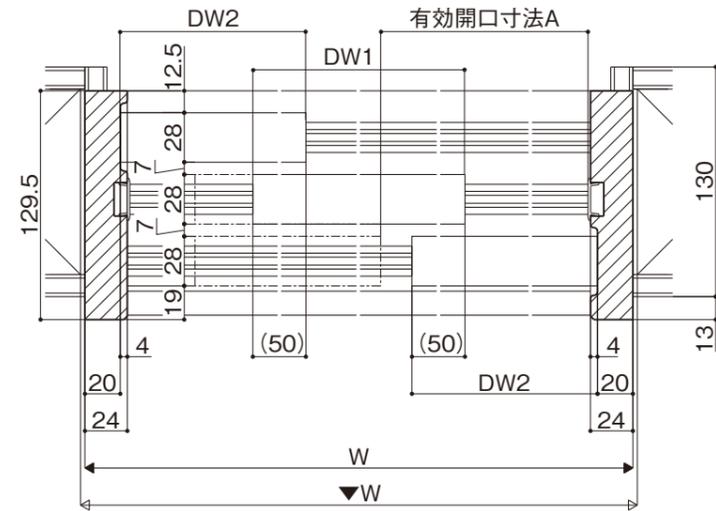
■納まり図

■クローゼット引戸ユニット連動タイプ ノンケーシング

●縦断面図



●横断面図

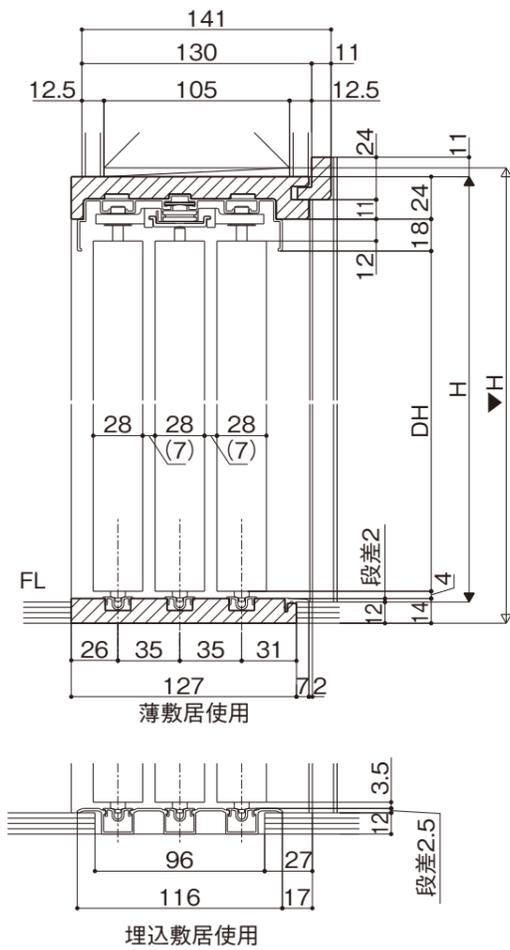


基本寸法 (mm)	W 呼称	W16	W24
	W	1643	2443
	H 呼称	H20	H23
	H	2023	2306

W 呼称 (枠外寸法)	A 寸法	DW1	DW2
W16 (1643)	929.5	518	593
W24 (2443)	1462.5	785	860

■クローゼット引戸ユニット連動タイプ ケーシング付

●縦断面図



●横断面図

